

2	お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
	山本ヨシ子	女 性	93歳	27歳	黒 田

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

黒田で子育てをしながら野菜を作っていました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

黒田で、ラジオ放送で聞きました。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

夜、電気をつけておしめを替えてやれると思ってほっとしました。天皇陛下のひと言で戦争が終わった。ありがたいことだと思いました。



電球のカバー 協力「豊橋市教委」

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「電気がつけられなかった」

私は、豊橋の田中仕立屋さんで針仕事をしていました。15年11月に帰国した夫と見合いをしました。再び召集があるから、早く結婚させたいということでした。昭和16年の正月9日に結婚しました。結婚後も豊橋で生活していました。

20年の3月頃からは、灯火管制*1がありました。電球には黒い布をかぶせ、ガラスは破片が飛ばないように、ペケ印に目張りをしました。夜は、毎日雨戸を閉めていました。子どものおむつを替えてやるのに、夜は本当に不自由しました。

日本は戦争に負けて、4等国*2になりました。私は田中屋さんのもとの、一流の着物を仕立てていたつもりでしたが、自分の仕立ても4等になったんだなあと思いました。黒田には呉服屋さんがあるわけではないので、近所の人から子守りに使う帯ばんでんや着物を作ってほしいと頼まれたこともありました。

配給制*3で困った覚えはそれほどありませんでした。持っていた着物をほどいて、シャツやズボン、下着を作ったので、着るものは何とかありました。配給はそれほど長い期間ではなかったと思います。おじいさんが自転車で買いに行ってくれたので、困らなかったように思います。供出*4はもちろんありましたが、野菜やお米もとれたので、食べるものがなくなるほどではありませんでした。生のサツマイモを薄く切り、それを干して供出しました。近所の家々の屋根は、干したサツマイモで白くなりましたよ。戦地に送るには、干したサツマイモが喜ばれたようです。

*1 戦時中、夜間空襲の目標となることを防ぐため、電灯、ローソク等の照明の使用を制限すること。

*2 連合軍総司令官のマッカーサーが、日本占領当初に言ったことばのこと。「日本は4等国に転落した」

*3 数量が十分でない物資をわりあてで配る制度のこと。米やさとう、マッチ、衣類などが対象となった。

*4 1942年(昭和17年)から行われた制度。農民から米、麦、いも類などの食料を政府が決めた価格で買い上げた。また、兵器生産のために、仏像、寺の鐘、鍋や釜など、あらゆる金属も供出となった。

山本昇さんのアルバムから (2)



金属供出の様子 女性がかけていたすきには、「大日本国防婦人会」の文字が入っています。昭和十九年ごろ



▲ 警備にあたる山本さん



▲ 寒い中国の冬の服装 昭和14年



いもんだん
▲ 慰問団による演芸 昭和15年

多くの慰問団が組織され、戦地を訪れた。素人の歌やおどりが中心だったが、時にはプロの歌手や落語家も参加した。



▲ 洗たくをする中国の人たち



▲ 荷物を運ぶ中国の人